

伊計島の動物の方言

当 山 昌 直 ★

On the dialect of animals in the Ikejima Island, the Okinawa Islands
Masanao TOYAMA

はじめに

伊計島の動物相は、近隣の動物の分布から判断して、恐らく、沖縄島のそれに包括されるような動物相を有しているものと考えられる。しかしながら、動物につけられた方言名には、その地域特有なものがあるものと予想される。筆者は、このような観点から、これまでに阿嘉島や浜比嘉島を調査してきた（当山、1983；1984）。引き続き、1984年12月に伊計島の動物の方言について調査する機会があったので、短期間の調査のため充分とはいえないが、簡単に報告する。

調査に協力して頂いた現地の方々、方言を音声表記に直して頂いた島尻澤一氏に感謝の意を表する。この調査の一部は、トヨタ財団の研究補助によるものであることを記し謝辞とする。

調査方法

現地にて、自治会長や区長に方言をよく

知っている方を紹介してもらって、直接その人から聞き込み調査を行った。調査に先立って、出身地やよそに住んだ経験などを聞き、より純粹な伊計島の方言を提供してもらうように努めた。その対象とならないものは参考資料として取り扱った。調査は、被調査者に動物の写真を見せてそれを方言名で答えてもらった。写真ではわからない場合は、形態や生態的特徴をヒントに用了。調査中の会話は、すべてカセットテープに収録した。カセットテープの内容は、すべて文字に直した。次に、文字をみながらテープを聞いて必要な個所だけ音声表記に直した。このような過程を経て、文字化した資料に基づいて、方言の整理及び解釈を行った。

調査結果

調査日：1984年12月20日

調査場所：沖縄県与那城村字伊計

被調査者について（敬称略）

竹田和史：明治44年7月5日生まれ。両親とも伊計島出身。伊計島で生まれて育った。24才のころから4、5年間阪神に住んでいた。後は、伊計島で生活し、今日まで至っている。前与那城村役場職員。

金城太郎：明治39年5月9日生まれ。伊計島で生まれ育つ。軍隊に行った時に南方に渡っただけで、島から出て暮らしたこと無い。半農半漁。

江田ふみ：明治39年9月8日生まれ。両親は伊計島出身。伊計島で生まれ育つ。結婚後、本土に一時期住んだことがあるだけで、ほとんど島から出ていない。

江田清栄：大正3年11月30日生まれ。生まれ育ちは伊計島。16才のころ那覇市に店員として1年間程住んだことがある。17才から戦後まで（約15年間）本土の方に住んでいた。

調査の結果は、整理番号の次に筆者が質問した動物の便宜的な名称、その次に竹田和史・金城太郎・江田ふみ・江田清栄氏の回答をそれぞれ示した。回答者で二つ以上の方言名を答える場合もあったが、それも結果に示した。

——は、質問しなかったもの、または質問しても回答のなかったことを示す。

番号	質問した動物名	竹田和史	金城太郎	江田ふみ	江田清栄
1	ジャコウネズミ	bi:tʃa:	pi:tʃa:	pi:tʃa:	pi:tʃa:
2	コウモリ	—	ko:mori	ko:mori	ko:mori
3	ネズミ	?uentʃu	?entʃu	?entʃu	?entʃu
4	イヌ	?iŋ	?ɪŋgwa:	?innuku ?ɪŋgwa:	?iŋ ?ɪŋgwa:
5	ネコ	maja:	maja:	maja:	maja:
6	ウマ	?uma	—	?uma	mma
7	ブタ	?wa:	?wa:	?wa:	?wa:
8	ウシ	?uʃi	?uʃi	?uʃi	?uʃi
9	ヤギ	hibidʒa:	hi:dʒa:	hi:dʒa:	hi:dʒa:
10	ジュゴン	?akanjajū	—	—	—
11	サギ	—	sa:dʒa:	—	sa:dʒa:
12	アヒル	?ahiru	?ahira:	?ahiru	?ahiru
13	タカ	—	taka	taka	taka
		?utidaka		?utʃidaka	
14	ニワトリ	tui	tui	tori	—

番号	質問した動物名	竹田和史	金城太郎	江田ふみ	江田清栄
15	ウズラ	?undʒa:gwa:	?undʒugwa:	?undʒa	?undʒa
16	シギ	—	tʃidʒuja:	—	tʃidʒira:
17	ハト	ho:tu	ho:tu	ho:tu	?o:ho:tu
		?o:go:tu	?o:bo:tu		
18	フクロウ	—	maja:utʃigaku	—	maja:utʃigaku
19	アカショウビン	—	—	—	—
20	ツバメ	—	he:maja:gwa:	?jumudui	—
21	ヒヨドリ	—	—	—	?wambu:
22	イソヒヨドリ	—	ɸu:fɪ	—	—
23	ヒバリ	—	tʃintʃinmugwa:	—	tʃintʃimmu:gwa
24	サンコウチョウ	—	—	—	—
25	メジロ	—	so:mina:	?ju:muduigwa:	so:mina:gwa
26	スズメ	kura:gwa:	?jumuri	?ju:muduigwa:	kura:gwa
27	カラス	garasa:	?jambarugarasu	garaʃi	karasu
28	カメ（陸亀）	—	?jamba ruga:mi:gwa:	—	—
			ka:mi:gwa:		
29	ヤモリ	?jamata:bui	?ja:du:	?jamata:bui	?jamata:bui
		?ja:du:			
30	キノボリトカゲ	—	?jamaʃigi	—	—
31	オキナワトカゲ	soŋkangwa:	soŋkaŋwa:	soŋkaŋwa:	—
32	ヘリグロヒメトカゲ	—	—	—	—
33	アオカナヘビ	—	?jamata:bui	—	—
34	メクラヘビ	—	—	—	—
35	ガラスヒバア	—	—	—	—
36	アオヘビ	?o:nagi	?o:nagi	?o:nagi	?o:nagi
37	アカマタ	?akamata:	?akamata:	?akamata:	?akamata:
38	ハブ	habu	habu	habu	habu
			(takaʃkurumaki)		
			(?jamanuha)		
39	イモリ	—	—	—	—
40	カエル	ka:ku:	ka:ku:	ka:ku:	ka:gu:

番号	質問した動物名	竹田和史	金城太郎	江田ふみ	江田清栄
41	トンボ	—	?a:ke:dʒu:	—	tonbo
42	ゴキブリ	hi:ra:	to:bis:ra:	hi:ra:	to:bis:ra:
43	カマキリ	sa:ru:	—	sa:ru:	sa:ru:gwa
44	バッタ	—	ga:ta hi:tuja: tʃirumi:	—	ga:ta
			hi:dʒa:kuenuundo :		
45	ナナフシ	guso:mmma	gusu:mmma	—	—
46	セミ	?asasa:	?asasa: ku:gu:gwa	?asasa: ʃi:gugwa:	?asasa: tʃi:gugwa:
47	ガ	—	—	—	—
48	チョウ	ha:be:ru	ha:be:ru	ha:be:ru:	tʃo:tʃo:
49	カ	—	gadʒaj gadʒami	gadʒami	gadʒaj
50	ハエ	ɸe: ?o:be:	he: ?o:be:	he:	he:
51	ノミ	—	—	—	—
52	ハナムグリ	—	heisa:bu:	hensabu	hensa:bu:
53	アリ	?a:i ?a iko:	?a iko:	?a iko:	?a:i
54	ハチ	—	tʃiburuhatʃi hatʃigwa	tʃiburuhatʃi hatʃi	—
55	オオゲジ	tubiq:kadʒi	jamaq:kadʒi	—	—
56	ムカデ	ŋ:kadʒi	ŋkadʒi	ŋkadʒi	—
57	ヤスデ	—	?amade:muʃi	—	—
58	クモ	—	ku:bu	ku:bu	ku:ba:
59	カタツムリ	mo:ma:	mu:ma:	mu:ma:	—

結果の検討

ありかならずしも種名をさしているわけではない。そこで、質問に対し回答された質問に用いた動物名は、便宜的なもので方言が動物分類学上のどの位置をさすのか、

質問した動物名の順で検討してみた。結果を、整理番号・方言名の順に記し、方言名の次の()内に同一の回答をした人数を示した。そして、対象になつていると考えられる動物の和名と学名を記し、備考を加えた。種小名で示されないものは、〔属・科・目〕などの大分類群にまとめたて示した。動物の分類は、朝比奈(1966)、日本鳥類学会(1974)、高良・東(1973)、内田(1962)、内田(1965)を参考にした。なお、家畜は分類学的検討の対象からはずした。また、方言ではないと考えられるものは削除した。

脊椎動物 VERTEBRATA

哺乳類 MAMMALIA

1 pi:tʃa: (3) bi:tʃa: (1)

リュウキュウジャコウネズミ
Suncus riukiuanus

今回の調査により、『p』の音韻が見出されているのが興味深い。沖縄島北部地域に見られる『p』の音韻とどのような関係があるのか今後の調査が待たれる。

2 ko:mori (3)

[翼手目 CHIROPTERA]

固有の方言らしきものが得られなかった。これは、コウモリ類がみられないか、もしくは稀にしかみられないことに起因する可能性がある。

3 ?entʃu (3) ?uentʃu (1)

〔クマネズミ属 *Rattus*〕

ハツカネズミ属の方言が得られないか注意して調査したが、発見されなかった。ハツカネズミ属が分布していないか、もしくは稀にしかみられないことに起因しているものと考えられる。

10 ?akanjgaju (1)

ジュゴン *Dugong dugong*

念のため、被調査者にジュゴンとイルカを区別しているか確認したところ、人魚といわれている動物だと話していたので、ジュゴンのことを指している可能性がある。

11 sa:dʒa: (2)

[サギ科 ARAEIDAE]

13 taka (3) ?ut idaka (1)

?utʃidaka (1)

[ワシタカ目 FALCONIFORMES]

?ut idaka は9月か10月ごろ島にやって来るタカ類を指し、?utʃidakaは島に落ちてくる(降りてくる)タカ類を指しているとのことであった。これらの話はサシバ *Butastur indicus* の生態と類似する面がある。したがって、サシバを指す場合が多いものと考えられる。

15 ?undʒa (2) ?undʒa:gwa: (1)

?undʒugwa: (1)

ミフウズラ *Turnix suscitator*

ウズラ *Coturnix coturnix* は、沖縄島には生息していない。沖縄の野外で見られる

ウズラと称されるのはミフウズラである。近隣の浜比嘉島の方言（当山，1984）と若干異なる点が興味深い。

- 17 ho:tu (3) ?o:ho:tu (1)
?o:go:tu (1) ?o:bo:tu (1)
〔ハト科 COLUMBIDAE〕

ho:tuは、ハト類、いわゆるハト科に属する種の基本的な呼び方と推定される。?o:がつくのは、何を指しているのか、何か意味があるのか解明できなかった。伊計島には、キジバト *Streptopelia orientalis*、リュウキュウズアカアオバト *Sphenurus formosae permagnus* が生息していると思われるが（未確認）、後者と関係しているかもしれない。

- 18 maja:utfigaku (2)
〔フクロウ科 STRIGIDAE〕

20 he:maja:gwa: ?jumudui
ツバメ *Hirundo rustica*
?jumuduiは、誤認の可能性があると考えられるが、一応あげておいた。he:maja:gwa:は、浜比嘉の方言調査の時は見つかなかった（当山，1984）。これまでに報告のなかった方言の可能性もあるので、今後の検討を必要としている。

- 21 ?wambu:
ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*
イソヒヨドリと混同している可能性がないとはいえないが、少なくとも両種かまた

はそのどちらかを指しているものと思われる。

22 Φu:fi

イソヒヨドリ *Monticola solitarius*
前述のヒヨドリと混同している可能性もありえる。

23 tʃintʃinmugwa: tʃintʃimu:gwa
セッカ *Cisticola juncidis*

ヒバリは、沖縄には生息していない。沖縄で一般的にみられ、ヒバリと呼ばれているものは、動物分類上はヒタキ科に属する本種である。

25 so:mina: so:mina:gwa
?ju:muduigwa:
メジロ *Zosterops japonica*

so:mina:に類する方言が多いこと、浜比嘉でも同様な方言が出てきたこと、及び?ju:muduigwa:と答えた方は、スズメのところでも同様に答えていたので、正確さに欠けること等から考え合わせると前者の方がよりこの地域の方言を表していることと思われる。

26 kura:gwa: kura:gwa ?jumuri
?ju:muduigwa:
スズメ *Passer montanus*

kura:と ?jumuとの二つタイプに方言を分けることができる。阿嘉島では kura:に類する方言で（当山，1983）、浜比嘉島では ?jumuに類する方言が認められる（当

山，1984）。阿嘉島より浜比嘉の方が距離的に近い所にあるので、それに類する方言が出てくる可能性の方が強いといえる。しかし、タイプの異なる二つの方言が存在することは興味深い。

- 27 garasa: ?jambarugarasu garaʃi
ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

?jambarugarasu は、国頭郡に生息するカラス類のことを指しているらしい。また、土地の人はあまりカラス類を知らないようなので、伊計島にはカラス類が生息していないか、もしくはごく稀にしか見られない鳥と思われる。浜比嘉島の調査でも同様な傾向が認められた（当山，1984）。

爬虫類 REPTILIA

- 28 ?jambaruga:mi:gwa: ka:mi:gwa:
リュウキュウヤマガメ

Geoemyda spengleri japonica

国頭に生息するカメのことを指しているので、本種を対象としているものと考えた。

- 29 ?jamata:bui (3) ?ja:du: (2)
〔ヤモリ科 GEKKONIDAE〕

?ja:du: は、那覇市などの都市地区から新しく入ってきた方言と思われる。そのことは、被調査者の方でも話していた。もう一方の方言は、在来のものと思われる。浜比嘉島の方言とも異なる（当山，1984）ので、宮城島や平安座島などの隣接地域のヤモリ類の方言も調べて比較してみる必要がある。

- 30 ?jamaʃigi

キノボリトカゲ

Japalura polygonata polygonata

本種のことを探しているのか、確証を得ることはできなかった。今後の検討を要する。

- 31 soŋkæŋwa: (3)

オキナワトカゲ

Eumeces marginatus marginatus

当山（1984）にも指摘されているように、本種は幼時期だけに特徴のある白いストライプの模様と青い尾を備えているが、成体になるとそれが消失する。それで調査は、幼体の写真を用いて行った。被調査者の方もはっきりと回答しているので、方言と種との対応は完全に一致しているものと考えられる。浜比嘉島の方言（当山，1984）と異なっていることが興味深い。

- 33 ?jamata:bui

アオカナヘビ

Takydromus smaragdinus

本種のことを探しているのか、確証を得ることはできなかった。今後の検討を要する。

- 36 ?o:nagi (4)

リュウキュウアオヘビ

Entechinus semicarinatus

ガラスヒバア *Amphiesma pryeri pryeri* の方言が得られず、本種に相当する方言が認められた。前者は、生息していないか、

もしくは生息していても稀な種であるものと推定される。方言の有無やその使用頻度は、人と出会う頻度とも関係しているのかかもしれない。

37 ?akamata: (4)

アカマタ *Dinodon semicarinatus*

38 habu

ハブ *Trimeresurusu flavoviridis*

ハブの方言の調査中に、takajkurumaki と ?jamanuha のヘビ類に関する方言と思われるものが得られた。まだ種類を特定できないので今後の調査が必要である。

両生類 AMPHIBIA

40 ka:ku: (4)

(カエル目 ANURA)

節足動物 ARTHROPODA

昆虫類 INSECTA

41 ?a:ke:dʒu:

(トンボ目 ODONATA)

42 hi:ra (2) to:bi:ra: (2)

(ゴキブリ目 BLATTARIA)

43 sa:ru: (2) sa:ru:gwa

(カマキリ目 MANTODA)

44 ga:ta (2)

(直翅目 SLTATORIA)

44 hi:tuja: tʃrumi :

hi:dʒa;kuenuundo:

直翅目の仲間と推定されるが、詳しく調べることができなかった。今後の調査検討が待たれる。

45 guso:mmma gusu:mmma

(ナナフシ目 PHASMIDA)

46 ?asasa: (4)

(セミ科 CICADIDAE)

46 ?asasa: (4)

大半がクマゼミ *Cryptotympana faciatis* *faciatis* を指しているものと推定される。他に ku:gu:gwa 、 fi:gugwa: 、 tʃi:gugw a: のセミ類に関する方言が得られたが、大きさや鳴き声などから、クロイワニイニイ *Platycleura kuroiwae* を指しているものと推定される。

48 ha:be:ru (3)

(鱗翅目 LEPIDOPTERA)

49 gadʒami (2) gadʒa (2)

(カ科 CULICIDAE)

50 ɸe: he: (3) ?o:be:

(双翅目 DIPTERA)

カ類を除く、ハエの仲間の方言である。

52 he isa:bu: (2) hensabu

リュウキュウツヤハナムグリ

Chrysomyia megacephala

方言は、本種かまたは同じ属の種を指しているものと思われる。

[真正クモ目 ARANEAE]

53 ?a:i (2) ?aiko: (3)

[アリ科 FORMICIDAE]

54 hatfi hatgwa

[膜翅目 HYMENOPTERA]

アリ類の仲間を除く、ハチ類のことを探している。

54 tʃiburuhatfi ʃiburuhatfi

[アシナガバチ属 *Polistes*]

唇脚類 CHILOPODA

55 tubiŋ:kadʒi jaŋkadʒi

オオゲジ *Thereuopoda clunifera*

56 ŋ:kadʒi ŋkadʒi (2)

[唇脚綱 CHILOPODA]

57 ?amade:muʃi

[倍脚綱 DIPLOPODA]

身近に見られるヤケヤスデ科の種類を探している可能性もある。

軟体動物 MOLLUSCA

腹足類 GASUTROPODA

59 mo:ma: mu:ma: (2)

[柄眼目 STYLOMMAТОPHORA]

文 献

朝比奈正二郎, 1966. 基準昆虫分類表. 北
隆館, 東京.

日本鳥類学会(編), 1974. 日本鳥類目録
改訂第5版. 学習研究社.

高良鉄夫, 1962. 琉球列島における陸棲蛇
類の研究. 琉球大学農家政工学部学術報
告, (9) : 1 - 202.

高良鉄夫・東清二, 1973. 沖縄産昆虫目録.
沖縄の昆虫, 160 - 181. 学習研究社.

当山昌直, 1981. 沖縄群島の両生爬虫類相
(I). 沖縄県立博物館紀要, (7) : 25 - 36.

当山昌直, 1983. 阿嘉島の動物の方言につ
いて. 県立博物館調査報告書III -座間味
村(ざまみそん)-, 23-29. 沖縄県立博物館.

当山昌直, 1984. 浜比嘉島の動物方言. や
ちむん, 8 : 53-61.

蛛形類 ARACHNIDA

58 ku:bu (2) ku:ba: